

令和2年度 学校関係者評価委員会 報告書

鳥取県理容美容専門学校

学校長 濱崎 公嗣

評価日	令和3年2月8日(月)	
学校関係者評価委員	委員長 矢田 壽美男 委員 西尾 達也、三谷 健吾、鳥谷 一弘、小椋 孝昭、濱崎 公嗣	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<b>1 本年度の自己評価について</b> [1]重点目標の達成状況		
<b>(1)教育課程の編成</b> ○メイクの先生は熱心で、学生の良い点や課題を把握しておられ、授業に活かされている。 ○学生1名(通信課程)の退学は、身体的な理由で将来の職業選択を考えればやむを得ない。		
<b>(2)授業内容と研修</b> ○特別支援教育に関して、インターンシップなどの対応やサロンオーナーの理解も促す必要がある。 ○発達障がい等を有する者を受け入れることは必要である。そのためには、教職員も知識や理解をあげることやその特性と将来の業務に必要なことの指導も必要である。		
<b>(3)生徒募集と生徒支援</b> ○入学者が増えたのは良いこと。コロナ禍でもっと県内高校生の志願が増加するかと期待していた。県内の高校生がもっと鳥理美に関心を持ち、積極的に目指すような学校となって欲しい。 ○社会人からの入学が増加するのは非常に良いこと。社会人からの入学者は、意欲も高く見識もそれだけある。意欲のある学生の学びに応えられるように、放課後等を活用しスタイリスト等を招き、より一段と高い技術の習得を企画しても良いのでは。 ○社会人からの入学者が、高校新卒の若い方を良い意味で引っ張ってくれるとおもしろく活気のあるクラスになると思う。 ○特別支援教育も含め、鳥理美に特色を待たせ、県外からの入学者も視野に入れた積極的な募集を考えては。 ○県内就職率が65%ということであるが、県内就職希望者がこれ以上増えて受入先サロンはあるのか。 ○県内の美容サロンは大型店を中心に人手は不足しており、ぜひとも県内に多く就職して欲しい。		○今後も引き続き、新たな学びや現代的な教育課題の知識や理解を進めることは大切であり、研修等を実施したい。 ○県内高校生に本校を目指す生徒が増加傾向であるが、一層本校の理解を促したい。 ○教育環境の充実も必要であり、外部の専門家のかも借りながら計画的に進める。 ○経済的に苦しい中で本校に入学し頑張っている学生のためにも、経済的な負担はなるべくぎりぎりまで抑えたい。
<b>(4)教育環境の整備</b> ○良い教員の確保、学習環境整備等のために学費を上げるのはやむを得ない。 ○今後も、計画的に教育環境の整備を進めて欲しい。		○教職員の待遇改善は図るべきではあるが、学校経営とのバランスで考えなければならない。 ○学校の魅力化や県内就職を目指す学生を増やしたい。そのためにも、業界関係者や卒業生の一層の支援をお願いしたい。
<b>(5)学校運営全般</b> ○この先生がいるから鳥理美を目指すというような魅力的な教員を育成する必要がある。 ○力のある教員の採用は学校の魅力化の一つである。そのために、待遇面も含め一層改善を進めて欲しい。 ○校長が着任後1年間で多くの取組で学校を変えようとする姿勢は良いと感じている。 ○事務業務など、特定の部分でアウトソーシングを進めることを検討してみてもどうか。 ○事務も人員を増やすことも検討すべきである。 ○県内でも理美容系の養成施設(学校)は、本校だけとなった。地域の人材供給面からも県など行政にもっと支援を願っても良いのでは。 ○理美容系では県内唯一の学校となる。関連業界や卒業生がもっと手厚い支援をすべきと思う。		○本日頂戴した御意見や提言を活かしたい。特に、高度な内容も学びたい学生に対する課外授業や事務関係も特に専門性が高い分野でのアウトソーシング等は前向きに検討したい。
<b>2 説明・公表について</b> ○特に意見等はなかった。		